

電子ジャーナル「iPlant」刊行

植物医科学の研究配信

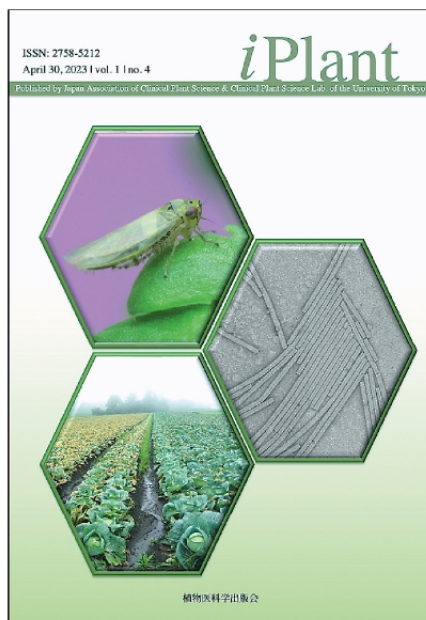
5分で分かる

最新の知見

【かごしま】東京大学植物医科学研究室の難波成任特任教授らは、植物生産に役立つ情報を提供する、電子ジャーナル「iPlant」(アイプラント)の本格的な刊行を始めた。農業者や農業関係者を対象にした雑誌で、植物医科学の研究

成果を配信していく。農作物などの病気を抑え、健康な農作物生産に必要な知識を分かりやすく解説した。スマートフォンやタブレット端末で、誰でも無料で閲覧できる。

「iPlant」はこれまでの第1〜4号を、試験運用として刊



刊行した電子ジャーナル「iPlant」

行してきた。5月に配信した第5号から誌面の内容を一新して、本格運用を始めた。記事や論文は、植物医科学の専門家である植物医師らが中心となって執筆し、図表や写真を豊富に使って分かりやすく解説。記事や論文は5分程度で読めるよう、文字数は約2000字に制限した。第5号には「植物病の画像診断はどのように使えるか?」「白紋羽病との付き合い方」などを掲載した。

記事・論文で紹介された農業資材や種苗は、関連サイトにアクセスできるようリンクを張った。読者は、論文を読んで感じた疑問や意見をウェブ画面から投稿することが可能で、植物医師や編集委員との双方向コミュニケーションができるようにした。

4月に開院したJA鹿児島県経済連植物病院の徳永太蔵院長は

「植物医師としての体験に基づいた情報を提供したい。特にサツマイモ基腐病対策の最新情報は随時発信していきたい」と話す。

難波名誉教授は「気候変動などで新たな植物病が増え、世界規模で3分の1の食料が失われている。現場で気軽に活用し、植物病の抑止に役立ててほしい」と期待する。